

実態		<ul style="list-style-type: none"> 毎日、朝食を食べたり、同じ時刻に寝たりといった生活習慣が整っている児童が多い。 進んで手をあげて発表できる児童が多い。 相手の話を聞くことができる児童が多い。 <u>ノートにふりかえりを詳しく書ける児童が増えてきた。</u>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 読書を好きな児童が堺市平均を下回っている。また、ほとんどの児童が図書室では学習漫画を読んでいる。 テストで間違えたところを後で勉強している児童が堺市平均に比べて少ない。 文章を叙述に基づいて読むことが苦手な児童がいる。 <u>見通しをもった行動や持ち物の管理ができない児童がいる。</u>
教科学力		<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ交流では、わかりやすく説明できる人を探すように声をかける。また、全体交流では、推薦する形で発表を促す。 算数科の授業では、あえて誤答を提示することで、①どこが間違っているのか②正しくはどんな形か③どうしてそうしないといけないのか、そう考えるのかの3ステップで考える場面を設定する。 <u>情報量の多い文章から目的に応じて取捨選択ができるような問題を提示する。</u> 児童が授業中に考えたこと、思ったことをふきだしを使ってノートに記録させる。
学びの基礎力	重点指導	<ul style="list-style-type: none"> 五箇東スタンダードを学習の基本的なルールとする。 東っ子健康カードで生活習慣を見直し、改善できるように指導する。 東っ子のノートの使い方をもとに、わかりやすい(自分なりの)ノートの指導をする。 学級文庫を充実させ、児童が気軽に手に取れる環境を整える。 月に一度、読書アンケートを行い、自身の読書週間を振り返れるようにする。 <u>いつまでに、どんなものが必要か提示するなど視覚支援をする。</u>
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度、ヘボン式ローマ字のプリントを宿題にだし、英語学習の基礎、コンピューターを使って調べ学習ができるようにする。 テストで間違えたところや、普段の宿題で間違えたところを自主学習で直しをしてくるよう促す。 音読・漢字学習・計算学習を出し、家庭学習の基礎を養う。また、現単元だけでなく、前学年の単元の復習プリントを活用することで理解の定着を図る。
社会的実践力		<ul style="list-style-type: none"> 学年目標「自立」を様々な場面で意識させ、積極的態度を養い、互いに高めあう集団作りを行う。 <u>総合的な学習の時間では、キャップハンディ体験などの交流を通して、障がいのある人の立場に立って考え、バリアフリーについて理解が深められるようにする。</u> 行事ごとに実行委員を決め、責任をもって取り組めるようにする。 みんな遊びなどの活動を通して、お互いが認めあえる仲間づくりを推進する。

※1学期から変更・付け加えた部分には下線を引いています。